

いわさき  
ちひろ  
生誕  
100年



「いわさきちひろが大切に描いたもの——『Life』。  
いわさきちひろの生誕100年にあたる2018年、いわさきちひろと、さまままな分野で  
活躍する七組の作家が、『Life』をテーマに『コラボレーション』を行います。」

# Life展



# みんな いきてる

「コラボレーション作家」

## 谷川俊太郎

九月二十九日(土)ー十二月十六日(日)

安曇野ちひろ美術館

ーいきてるってなんだろう

詩人の谷川俊太郎は、十六歳のときから詩を書き始め、対象の本質をすくく作品に取り入れるその力には圧倒的なものがあります。今までに書かれた膨大な数の詩には森羅万象が含まれ、無限の広がりを感じられます。

一方で、いわさきちひろの絵には子どもや草花、小鳥など、身近にある小さないのちの愛しさ、尊さがうたわれています。

異なる個性をもつ谷川の詩とちひろの絵とを組み合わせ、あらゆるものに息づくいのち、たえず変化していく宇宙に耳をかたむけます。



3



4



5



6



7



8



9

## いわさきちひろ

一九一八年～一九七四年

福井県武生現・越前市に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。一九五〇年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。同年、松本善明と結婚、翌年、長男猛を出産。一九五六年、小学館児童文化賞、一九六一年、産経児童出版文化賞、一九七三年「こころのくるひ」至光社でポロニーヤ国際児童図書展グラフィック賞を受賞。一九七四年肝臓ガンのため死去。享年五五歳。

## 谷川俊太郎

(たにかわしゅんたろう)

一九三二年

東京生まれ。詩人。一九五二年第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。一九六二年『月火水木金土日の歌』で第四回日本レコード大賞作詞賞、一九七五年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞二〇一〇年「トロムソコラージュ」で第一回鮎川信夫賞など、受賞・著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表。近年では、詩を釣る「Poemアプリ」「谷川」や、郵便で詩を送る「Poemメール」など、詩の可能性を広げる新たな試みにも挑戦している。

## 谷川俊太郎からのメッセージ

ちひろさんの子どもたち

ちひろさんの子どもたちは／あかんぼのようにまっさらで／大人よりいっしょけんめい考える／女の子はいつもすっぴん／男の子は戦争がきらい  
ちひろさんの子どもたちは／手足のびのびいっばい遊ぶ／昼間は本を読む 夜は宇宙を読む／友だちには子どもだけでなく／おじいさんやおばあさんもいる  
ちひろさんの子どもたちは／悲しいときは堂々と泣く／怒っても悪口はいわない／うれしい時はみんなと笑う／花や小川や紋白蝶もいっしょに

## 展覧会の見どころ

〈ちひろと谷川俊太郎の詩画集刊行！〉

谷川がちひろの描いた子ども絵に添えて、新たな詩をつくりました。ふたりの詩画集「なまえをつけて」が本展にあわせて刊行されます。谷川の詩によってのちが吹き込まれ、ちひろの描いた子どもたちがいきいきとおしゃべりをはじめます。

〈生前のちひろと谷川の「コラボ」みち「原画初展示」〉

谷川の連作詩「みち」が一九七三年から一九七四年にかけて新聞に初めて連載されたとき、絵を描いたのがちひろでした。連載の途中でちひろが体調を崩し、別の画家に交替しましたが、遺された六点の原画を詩とともに初めて展示します。

〈ちひろと谷川とあなたでつくる新作詩〉

会期中に展示するちひろの絵を見て投稿された「こぼ」をもとに、谷川が会期最終日に新作詩を発表します。ぜひあなたも詩に参加しませんか？

## 関連イベント

〈谷川俊太郎によるトークと詩の朗読〉

〔日時〕十月十四日〔日〕午後一時半～午後三時 午後一時開場（会場）松川村・すずの音ホール〔聞き手〕川口恵子 ナナロク社〔参加費〕一五〇〇円（美術館入館券付き）〔定員〕二五〇名（共催）松川村教育委員会、松川村公民館、松川村図書館 申し込み要事前予約（九月十五日より電話予約にて受付）

〈ギャラリートーク〉

〔日時〕第二、四土曜日 午後二時～午後二時半（申し込み不要）〔参加費〕無料（入館料のみ）

## 「100」展パスポート

すべての「100」展に入館できるパスポート二〇〇〇円 販売場所：ちひろ美術館（東京・安曇野）

## 関連書籍

『いわさきちひろ生誕 〇〇年 Lie Chihito Wasaki 100』二〇一八年三月一日刊行／一三〇〇円（税別）  
『なまえをつけて』講談社刊／三二二ページ／A12取版／二〇一八年九月十五日頃発売／一四〇〇円（税別）

## 開催要項

〔展覧会色〕いわさきちひろ生誕一〇〇年「100」展 展みんないきてる 谷川俊太郎〔会期〕二〇一八年九月二十九日（土）～十二月十六日（日）〔開館時間〕午前九時～午後五時（休館日）第二、四水曜日〔入館料〕大人八〇〇円／高校生以下無料（主催）ちひろ美術館、信濃毎日新聞社〔特別協賛〕株式会社ジャクエツ〔協賛〕株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン〔協力〕川口恵子（ナナロク社）、講談社

## お問い合わせ

本展覧会を二紹介いただける場合に、リリース内に掲載の作品画像データをお貸し出しいたします。ご希望の場合は、左記担当までご連絡ください。

安曇野ちひろ美術館 広報担当 田邊 畔柳 入口  
〒三九九八五〇 長野県北安曇郡松川村西原三三五八  
二四〔電話〕〇二六・二〇七二〔電送〕〇二六・二〇七二  
二〇七二四〔Eメール〕lapublicity@chihiro.or.jp

1. いわさきちひろ マンデーをした少女 一九七〇年頃
2. 谷川俊太郎 撮影 深堀雄輝
3. いわさきちひろ 星をもつ男子 一九六七年
4. いわさきちひろ 秋の花と子どもたち 一九六五年
5. いわさきちひろ 風と羽子板 一九六八年
6. いわさきちひろ わらびを持つ少女 あかまんまらげ〔童心社〕 一九七二年
7. いわさきちひろ 晴れ着を着たりの少女 一九七一年
8. いわさきちひろ 雪の幻想 一九七一年
9. いわさきちひろ 一畫 一九六九年

いわさきちひろ生誕100年サイト  
100.chihiro.jp





2-1, ジョン・バーニンガム(イギリス)『おじいちゃん』(ほるぶ出版)より 1984年 谷川俊太郎・訳

## ちひろ美術館コレクション展 人生

2018年9月29日(土)～12月16日(日)

### 絵本が教えてくれる 人生いろいろ

ちひろ美術館では、すぐれた子どもの本のイラストレーションを貴重な文化財のひとつと位置づけ、世界34の国と地域、207名の画家による27200点を収蔵しています。本展では、コレクションのなかから「人生」をテーマにした作品を展示します。絵本には、あかちゃんから老人までが登場し、人生のさまざまな場面が描かれています。ときに寓話や動物の姿をかりて、人生の悲喜こもごもを表現した作品もあります。幼い日に出会った物語や登場人物たちが、生きる心の支えになることもあるでしょう。あわせて、谷川俊太郎がことばや翻訳を手がけた絵本作品を紹介するコーナーも設けます。世界の絵本画家たちが紡ぎだす、彩り豊かな人生のドラマをご覧ください。



2-2, キアラ・ラパッチーニ(イタリア)『ねえ こっちむいて!』(小学館)より 1998年



2-3, クラウディア・レニャッツィ(アルゼンチン)『わたしの家』より 2001年



2-4, 村上康成(日本)『ようこそ森へ』(徳間書店)より 1988年

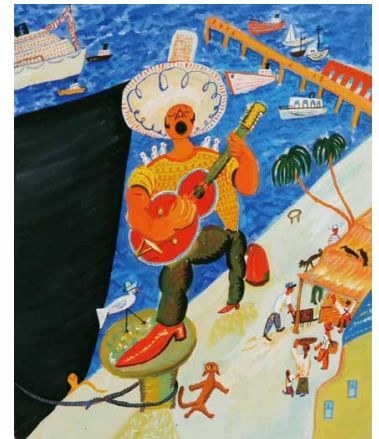
展覧会名 ちひろ美術館コレクション展 人生

会期 2018年9月29日(土)～12月16日(日)  
○開館時間=9:00～17:00  
○休館日=第2・4水曜日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室3・4

料金 大人800円/高校生以下無料  
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円/Life展パスポート1000円

主催 ちひろ美術館、信濃毎日新聞社



2-5, 荒井良二(日本)『モンテロッソのピンクの壁』(ほるぶ出版)より 1992年

## 展覧会の見どころ あかちゃんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで。生きることは……!?

人は生きていくなかで、さまざまな人と出会い、いろいろな出来事を体験します。幼いときには家族の愛情に包まれて育ち、子ども時代には学校や地域のなかで、友だちとの関係を通して多くのことを学んでいきます。大人になれば、働くことや生きがいについて考え悩む場面も出てきます。共働きの両親への不満を描いたキアラ・ラパッチーニの『ねえ こっちむいて!』、夏のキャンプを楽しむ親子を描いた村上康成の『ようこそ森へ』など、絵本を開けば、生きていくためのヒントがきっと見つかります。

## 寓話や動物の姿を通して、人生が見えてくる

ロシアの高官を思わせる襟の高い外套を着たおおかみ、映画女優をイメージした黒い帽子とファーで着飾った牛の貴婦人、シルクハットに燕尾服のつばめ……。絵本のなかでは、動物たちの姿をかりて比喩的に、人間の本質や社会的立場をユーモラスに表現している作品も多く見られます。人間以上に人らしく人生を語る、動物たちの姿をお楽しみください。

## 画家の人生体験から生まれた絵本たち

内モンゴルへの旅の体験を生かした赤羽末吉の『スーホの白い馬』、アルゼンチンの独裁政権下に子ども時代を過ごし、自由へのあこがれを絵本にしたクラウディア・レニャッツィの『わたしの家』など、画家自身の人生体験が色濃く反映した絵本作品を展示します。作品に込められた画家の想いをご覧ください。

出展作品数 約100点

主な出展作品 キアラ・ラパッチーニ(イタリア)『ねえ こっちむいて!』(小学館)より 1998年/荒井良二(日本)『モンテロッソのピンクの壁』(ほるぷ出版)より 1992年/村上康成(日本)『ようこそ森へ』(徳間書店)より 1988年/エフゲーニー・ラチョフ(ロシア)『灰色しっぽの大おおかみ』1959年/ユゼフ・ヴィルコン(ポーランド)『イタチの襟巻をしたトラ』より 1989年/赤羽末吉(日本)『スーホの白い馬』(福音館書店)より 1967年/クラウディア・レニャッツィ(アルゼンチン)『わたしの家』より 2001年/ジョン・バーニンガム(イギリス)『おじいちゃん』(ほるぷ出版)より 1894年 谷川俊太郎・訳 ほか

## 関連イベント ●ギャラリートーク

日時:毎月第2・4土曜日 14:30~15:00

会場:安曇野ちひろ美術館 展示室3・4 料金:無料(入館料のみ) 申し込み:不要(参加自由)

図版について 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

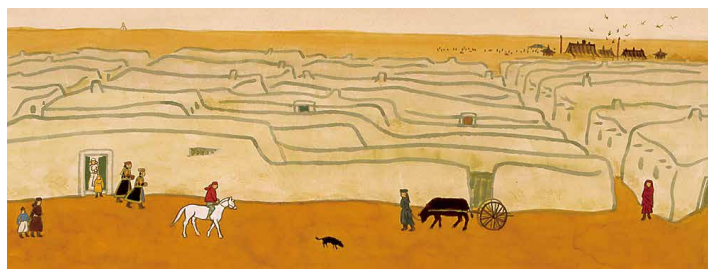
※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



2-6



2-7



2-8

2-6, ユゼフ・ヴィルコン(ポーランド)  
『イタチの襟巻をしたトラ』より 1989年  
2-7, エフゲーニー・ラチョフ(ロシア)  
『灰色しっぽの大おおかみ』1959年  
2-8, 赤羽末吉(日本)  
『スーホの白い馬』(福音館書店)より 1967年



# いわさきちひろ生誕100年「Life展」

いわさきちひろの生誕100年にあたる2018年、ちひろ美術館（東京・安曇野）では、ちひろが大切に描いたもの—「Life」として、さまざまな分野で活躍する7組の作家と「Life」をテーマにコラボレートする「Life展」を開催しています。

## 安曇野ちひろ美術館での開催

3月1日～5月7日 あそぶ plaplax (アートユニット)  
5月12日～7月16日 ひろしま 石内都 (写真家)  
7月21日～9月25日 子どものへや トラフ建築設計事務所 (建築家)  
9月29日～12月16日 みんないきてる 谷川俊太郎 (詩人)

## ちひろ美術館・東京での開催

3月1日～5月12日 まなざしのゆくえ 大巻伸嗣 (アーティスト)  
5月19日～7月22日 着るをたのしむ spoken words project (ファッションブランド)  
7月28日～10月28日 あそぶ plaplax (アートユニット)  
11月3日～2019年1月31日 作家で、母でつくるそだてる 長島有里枝 (アーティスト)

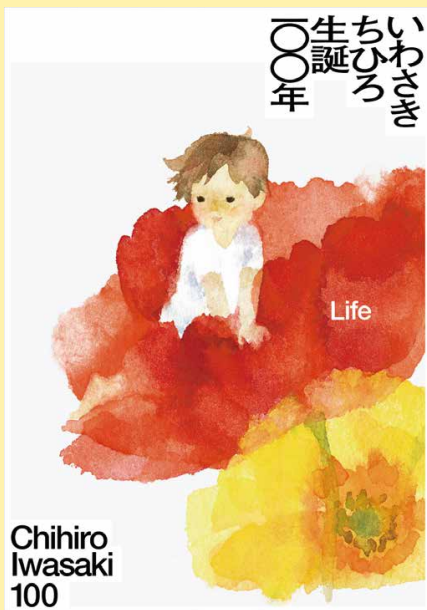
いわさきちひろ生誕100年サイト [100.chihiro.jp](http://100.chihiro.jp)

## ちひろの誕生日会 100歳おめでとう!

12月15日(土)

2018年12月15日は、いわさきちひろの100歳の誕生日にあたります。

ちひろの誕生日会、みんなで盛大にお祝いしましょう。



けしの花のなかのあかちゃん 1960年代後半

今年は、2018年12月16日(日)まで開館延長します。

### 展示関連イベント

## 谷川俊太郎によるトークと詩の朗読



10月14日(日)  
13:30～15:00(13:00開場)  
会場:松川村・すずの音ホール  
参加費:1500円(美術館入館券付き)  
聞き手:川口恵子(ナナログ社)  
定員:250名  
申し込み:要事前予約  
(9月15日よりHP・TELにて受付)  
画像:谷川俊太郎/© 深堀穂穂

## ベビーカーでお出かけしよう! ファーストミュージアムデー

10月12日(金)、11月10日(土) 各日10:30～11:30

0歳から2歳のお子さんとともに、あかちゃん絵本のおはなし会や、開催中の展覧会くいわさきちひろ生誕100年「Life展」みんないきてる谷川俊太郎のガイドツアーなど、安曇野ちひろ美術館を親子でゆっくり楽しみましょう。



対象:0歳～2歳の子どものとその保護者 定員:親子10組 参加費:無料(入館料のみ)  
申し込み:要事前予約(HP・TELにて受付)

## ちひろの秋レシピ —— 焼きりんごをつくろう

10月7日(日) 13:00～16:30

ちひろも大好きだった焼きりんご。地元産紅玉でつくって食べませんか?  
当館学芸員によるくいわさきちひろ生誕100年「Life展」みんないきてる谷川俊太郎の展示解説や松川村の若手農家「あつふるぼういず」によるりんごトーク&りんご狩り体験もお楽しみいただけます。  
試食無料、お土産りんご3個付です。

集合場所:安曇野ちひろ美術館 正面受付 参加費:1500円(入館料別・りんごのお土産付) 定員:20名 申し込み:要事前予約(HP・TELにて受付)



りんごと天使 1964年

## 安曇野市民入館無料デー

9月30日(日) ※ご住所のわかるものを受付でご提示ください。

## 12月開館延長スペシャル 長野県民入館無料デー

12月2日(日) ※ご住所のわかるものを受付でご提示ください。

### ●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示の見どころなどをお話します。

日時:毎月第2・4土曜日 14:00～ちひろ展/14:30～コレクション展  
参加費:無料(入館料のみ) 申し込み:不要(参加自由)

### ●おはなしの会

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみください。

日時:毎月第2・4土曜日 11:00～11:30  
料金:無料(入館料のみ)  
申し込み:不要(参加自由)



2018年12月17日(月)より、冬期休館となります。

安曇野ちひろ美術館

[chihiro.jp](http://chihiro.jp)

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 田邊 畔柳・入口  
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24  
TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774  
E-mail:[apublicity@chihiro.or.jp](mailto:apublicity@chihiro.or.jp)